

2026 年度 一般選抜Ⅲ期(3/7) 国語 出題意図

大問一 出題意図（問題一全体）

問題文は、哲学や脳科学における「意識」の根源的な性質について論じた文章である。

複雑な思考や感情ではなく、「見えている」「聞こえている」というもっとも素朴な感覚

こそが意識の基盤であり、それがあるからこそ人間は単なる情報処理機械（ロボット等）

とは異なり、「私」という主観的な存在を成り立たせているとする筆者の論理を正確に

追う思考力を問うた。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な熟語（根源、反射、内蔵、産物）を選択する表記能力を問うた。

問二：接続詞。換言（つまり）や結論（だから）など、複雑な論理展開を繋ぐ語句を的確に補う力を問うた。

問三：空所補充。感情が電気信号に還元されて身体の「行動」を変えるが、そこには「主観」が伴うという、心身二元論に関わる概念語の配置を問うた。

問四：具体例の特定。「最も素朴でシンプルな意識」の例として、複雑な思考や感情ではなく、「見えている」「聞こえている」といった純粋な感覚を選択する力を問うた。

問五：文脈把握。「環境と相互作用している」が意識を伴わない純粋な情報处理的反応を指すことを踏まえ、意識（感情や主観）が介在する行動を不適切な例として除外する

力を問うた。

問六：空所補充。単細胞生物が情報処理をして生きているものの「意識が存在しなくても生きることはできるのだ」という筆者の逆説的な結論を推測する力を問うた。

問七：記述問題。「意識＝あなたそのもの」である理由について、見たり感じたりする「素朴な意識」が存在しなければ、感情も思考も、「私」という主観自体も存在しなくなるためであることを簡潔に説明する力を求めた。

大問二 出題意図（問題二全体）

問題文は、現代ビジネスや社会における「モノからコトへ」の価値転換と、コロナ禍がもたらした「見えない世界（オンライン）」の拡大について論じた文章である。物質的な所有から、経験や共感といった抽象的な付加価値へと人々の志向が変化した背景を理解し、その変化が生産者や社会構造に与える影響をマクロな視点で読み解く構想力を問うた。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な熟語（忌避、法規制、冠婚葬祭）を選択する表記能力を問うた。

問二：空所補充。物理的な所有欲が満たされた後に向かう先として、「精神的な満足感（価値）」へと推移する社会心理を文脈から読み取る力を問うた。

問三：空所補充。サブスクリプションの文脈において、「所有」から「利用」へ、「需要

（顧客側）」の変化と「供給（提供者側）」のスタンスの変化という経済用語を適切に補う力を問うた。

問四：具体例の特定。「モノからコトへ」の変化の例として、自動車の所有からサービスの利便性へのシフトや、使用場面の付加価値を重視する視点などを正しく選択する力を問うた。

問五：修飾関係の理解。「直接的に」という副詞が、オンライン化を「体感した」という動詞にかかっていることを文法的に正確に識別する力を問うた。

問六：指示語の把握。「そのことへの警鐘」が、コロナ禍で進んだ「オンラインへの過度な依存」や「グローバル経済への依存」の脆さを指していることを特定する読解力を問うた。

大問三 出題意図（問題三全体）

四字熟語の構成法則の理解と、同音異義語の正確な意味的使い分けを問う問題である。

出題意図（個別問題）

問一：同じ漢字が繰り返される四字熟語（空理空論、不偏不党、海千山千、自給自足、半信半疑）について、熟語全体の意味から共通する構成要素の漢字を類推する語彙力を問うた。

問二：同音異義語「カンショウ」（感傷、鑑賞、観賞、緩衝、干涉）について、芸術、自然、物理的衝突、人間関係といった多様な文脈に応じて正確に漢字を選択する知識を問

うた。